



【特集】

～歴史・文化と河川の関わり～

・奈良県

「竜田川の歴史と風景」

・京都府

「宇治川派流の歴史と河川利用について

～伏見港と十石舟の運航～」

【水辺を楽しもう】

・大阪市

「ご存じですか？市民の足「渡し船」」

【トピックス】

・近畿地方整備局

「淀川舟運の復活に向けて

～淀川大堰閘門の事業着手～」

【季節の水辺風景】

・堺市

「但馬池（多目的調節池）」

【インフォメーション】

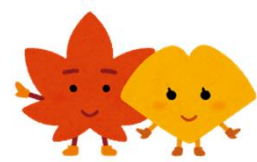
・大阪府

大阪府立狭山池博物館

令和3年度特別展・開館20周年記念展

狭山池のルーツ

－古代東アジアのため池と土木技術－



ページ

河川紹介

2

東横堀川(大阪市)

.....

Ⓐ

特集

【歴史・文化と河川の関わり】

3

竜田川の歴史と風景

.....

Ⓑ

奈良県 県土マネジメント部 河川整備課

5

宇治川派流の歴史と河川利用について
～伏見港と十石舟の運航～

.....

Ⓒ

京都府 建設交通部 河川課

水辺を楽しもう

7

ご存じですか?市民の足「渡し船」

.....

Ⓓ

大阪市 建設局 企画部 河川課

トピックス

9

淀川舟運の復活に向けて
～淀川大堰閘門の事業着手～

.....

Ⓔ

近畿地方整備局 河川部 河川計画課

季節の水辺風景

12

但馬池(多目的調節池)

.....

Ⓕ

堺市 建設局 土木部 河川水路課

インフォメーション

13

大阪府立狭山池博物館
令和3年度特別展・開館20周年記念展
狭山池のルーツ
－古代東アジアのため池と土木技術－

.....

Ⓖ





東横堀川 (A)

今年、東横堀川は土佐堀川より分流し、大阪府中央区を北から南へと流れている一級河川です。東横堀川にはかかる本町橋は大正二年に架けられ、現役としては大阪市内最古の橋として親しまれています。

また、東横堀川の沿川地域の活性化と水都大阪の魅力を向上を目的とした「本町橋 B A S E」に今年、β本町橋がオープンし、新たな賑わい拠点として注目を集めています。

東横堀川

ひがしよこぼりがわ



※図中 A～G は記事の位置を示しています。



▶ 本町橋

β 本町橋



β本町橋については、さらさ113号および下記HP参照
<https://hommachibashi.jp/>

竜田川の歴史と風景

奈良県県土マネジメント部河川整備課

1. 河川の概要

1.1 大和川水系（奈良県域）の圏域分割

奈良県では、大和川水系を概ね地勢的なまとまりで4圏域（生駒いかるが圏域、平城圏域、曾我葛城圏域、布留飛鳥圏域）に分割して河川整備計画を策定しており、竜田川は北西部の「生駒いかるが圏域」に含まれています。「生駒いかるが圏域」は、奈良市、大和郡山市、生駒市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町より構成される圏域面積約133km²（県土面積の約4%）、人口は約28万人（県人口の約20%）の圏域です。

1.2 位置及び地形

竜田川は幹川流路延長約15km、流域面積約54km²の一級河川です。図-1に示すとおり生駒山（標高642m）の北東の山麓を源流とし、生駒山・信貴山（標高437m）が連なる生駒山地と矢田丘陵（松尾山（標高315m））を中心に南北に13km程度の丘陵）の間を南下、途中、生駒山地・矢田丘陵に源を発する多くの二次支川を合流しながら大和川本川に流入します。

1.3 目標とする姿

竜田川は圏域を代表する河川であり、流域は急激に市街地が発達しました。河川整備にあたっては市街地の中央部を貫流する河川の特徴を活かし、うるおいとやすらぎのある都市の空間軸として、沿川の都市景観と調和しながら市街化の中で失われた清流や親水性、自然環境の復元を図っています。

また、9世紀以降、図-2に示す能因法師や在原業平らの歌にも見られるように、もみじの名所として全国的に著名な川となりました。このため、竜田川の歴史や文化を活かし、もみじを基調として、かつてにぎわった景観の再生や魅力づくりを行うことで、地域のシンボル、観光名所となる空間整備を目指します。



図-1 竜田川位置図（生駒いかるが圏域）

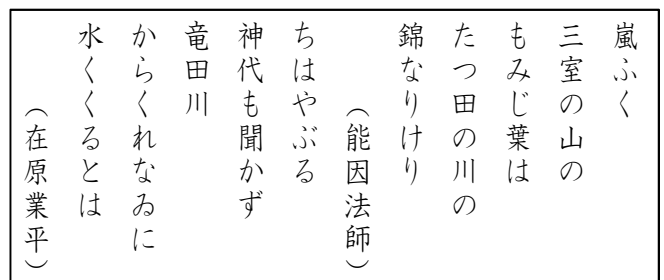


図-2 竜田川を舞台に詠まれた和歌の例

2. 竜田川を含む周辺地域の歴史

竜田川周辺は、大和政権が西に向かって出ていくための要衝の地であり、6、7世紀には聖徳太子が法隆寺を建立し、奈良時代では行基や長屋王の墓も営まれるなど、早くから開けていました。以下に、竜田川を含む周辺地域の歴史を時系列により振り返ります。

<平安時代>

- ・ 古今和歌集や百人一首に歌われるなど、竜田川のもみじは広く知れ渡る。

<室町時代>

- ・ 舟運による河内との交易が盛んになり、舟運のための河川改修工事がたびたび行われている。

<江戸時代>

- ・ 竜田城の築城のため、河道付替工事などにより、もみじは減少するが、廃城後にもみじを再び植栽し、景観復元に取り組む。

<明治～大正>

- ・ 竜田川保勝会により、カエデの大幅な増殖と風致保全を行い、古来のもみじの名所として知られるようになる。
- ・ 河川交易上重要な河川であったが近代化の風潮のなか鉄道の開通などに伴い舟運の川としての役割は幕を閉じた。

<昭和～現在>

- ・ 昭和15年「紀元2600年記念事業」が行われ年間10万人の観光客が訪れた。
- ・ 現在、秋のもみじ祭りなどのイベントが開催され、多くの観光客が訪れる。

3. 竜田公園からの風景

竜田公園は斑鳩町の南西部に位置する竜田川沿い総延長約2km、総面積14haの都市公園です（**図-3**）。竜田公園からの風景は、初夏には新緑（**写真-1**）、秋には紅葉（**写真-2**）と四季を通じて自然に親しむことができ、季節の移ろいを感じられる絶好の場所となります。また公園敷にはもみじをモチーフとしたデザイン（**写真-3**）も施され多くの人の憩いの場として利用されています。

4. さいごに

今年度は三室山北側斜面における園路整備等に着手するなど、竜田川の新たな眺望を創出し、幅広い世代に親しまれる整備を進めて参ります。



図-3 竜田公園位置図



写真-1 初夏の風景



写真-2 秋の風景



写真-3 公園敷のデザイン

宇治川派流の歴史と河川利用について～伏見港と十石舟の運航～

京都府建設交通部河川課

1 はじめに

宇治川派流は、京都市南部の伏見区に位置する延長約2.7km、水源のほぼすべてを琵琶湖疏水としている一級河川です。宇治川派流は、その名のとおり、琵琶湖から大阪湾に注ぐ一級河川淀川(宇治川^{※1})の派流であり、周辺は安土桃山時代には豊臣秀吉による伏見城築城の資材運搬のための伏見港が開港し、その後、埋立等が進み、現在の宇治川派流、濠川(伏見城の外堀)の原型が作られました(図-1、図-2)。

今回は、宇治川派流と伏見港の歴史、伏見港にまつわる話題や十石舟の運航による河川利用についてご紹介します。

※1…淀川のうち、滋賀県との府県境から桂川、木津川と合流する三川合流地点までの区間が宇治川と呼ばれています。



図-1 宇治川派流の位置

2 宇治川派流と伏見港

(1) 歴史

伏見港は、伏見城が築かれた安土桃山時代から第二次世界大戦まで淀川舟運の拠点でした。特に、江戸時代には大坂～京都の中継点として三十石船や高瀬舟などが往来し、港町として栄えました。

その後、宇治川派流の河川指定や宇治川派流の全区間と宇治川本川の京都市区間及び濠川の一部が港湾区域に指定され、各々の法律に基づいた管理を行うこととなりました。

明治 27 年: 琵琶湖疏水が竣工し、疏水放水路が現濠川に接続

大正 11 年: 内務省告示により伏見港が指定港湾に指定。

昭和 7 年: 旧河川法(明治 29 年)により宇治川派流が京都府管理の準用河川に認定

昭和 28 年: 港湾法により地方港湾として、港湾区域と港湾管理者が京都府と決定

昭和 38 年度～: 伏見港における船舶の利用が無くなる。

昭和 40 年: 新河川法(昭和 39 年)により宇治川派流が一級河川に指定。

昭和 42 年: 新河川法により濠川が一級河川に指定。

昭和 63 年度～平成 6 年度: 港湾環境整備事業(伏見みなと公園供用)

現在、伏見港は実質的に船舶の航行はなく、港湾としての機能はなくなりましたが、伏見港の再生と親水性あふれた水辺空間の創出のため、平安 建都 1200 年、伏見開港 400 年にあわせて「伏見みなと公園」が整備され、都市内の貴重な水辺空間となっています。(写真-1)

○整備された主な公園施設(公園面積約3ha)

- ・遊歩道約3km(幅員約1.5m)、橋梁(水上デッキ)2基
休憩所 3ヶ所 など

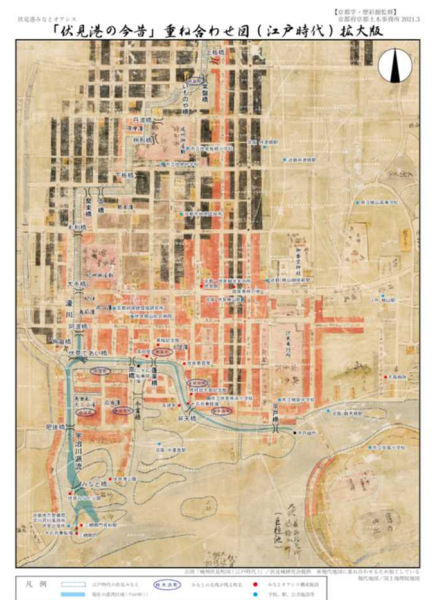


図-2 「伏見港の今昔」重ね合わせ図

※今昔のおおよその位置関係を示すもの



写真-1 宇治川派流と港湾施設

(2) 十石舟と三十石船の運航

伏見港がかつて京都と大阪を結ぶ舟運の連絡港として栄えていた頃の舟運の姿を趣深く伝える十石舟は、現在は観光船として宇治川派流を3月下旬～12月上旬に運航しています(写真-2)。また、春季と秋季は、広々とした船内を楽しめる三十石船の運航もあります。

十石舟、三十石船運事業は、派流沿いの伏見の街並みを楽しめるだけでなく、歴史や見どころのガイドもあり伏見をより楽しめる当地域の代表的な観光資源であり、伏見観光活性化の核となる事業としてNPO法人伏見観光協会が運営しています。



写真-2 宇治川派流と十石舟

3 みなとオアシスの登録

令和3年4月30日に全国唯一の内陸河川港湾である伏見港が、国土交通省の「みなとオアシス^{※2}」に登録されました(図-3)。登録された構成施設の内、代表施設である「伏見夢百衆」は、大正8年建造の月桂冠日本社を改装した観光拠点となっており、伏見港に関する情報発信を行っています(写真-3)。また、「黄桜記念館」や「月桂冠大倉記念館」などがあり、豊富で良質な地下水に恵まれた伏見の酒造りの技、日本酒の歴史や文化を感じられる空間となっています。

また、桜まつりや伏見万灯流し、伏見港まつり(納涼盆踊り)など、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われ、地域住民の交流促進や地域の魅力向上につながる事が期待されています。

※2・・・「みなと」を核とした地域住民の交流や観光振興を通じた地域活性化を促進するため、地域住民の参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設を国土交通省(港湾局長)が「みなとオアシス」として登録する制度。全国148箇所目の登録。

※3・・・伏見にゆかりのあるイラストレーター、ながた みどり氏によりデザインされた伏見港の飾り文字で、みなとまち伏見を象徴する宇治川派流、十石舟、酒蔵、三栖閘門などで「伏見港」の文字が形作られている。



図-3 川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見の概要



図-4 伏見港のロゴ^{※3}



写真-3 伏見夢百衆(観光拠点)
[大正8年建造の月桂冠日本社]

5 おわりに

引き続き、港湾管理者とともに宇治川派流沿いに残る歴史的建造物との調和や緑豊かな水辺空間の保全に努めていきます。また、地域住民のニーズを取り入れた水辺空間の利用促進や良好な水辺空間の保全に対する住民意識の啓発にも努め、地域と連携・協働した宇治川派流の管理を進めていきます。



ご存じですか？市民の足「渡し船」

大阪市建設局企画部河川課

みなさんは日常生活で船に乗る機会がありますか？今回は、大阪市内で誰でも船に搭乗できる「渡し船」についてご紹介させていただきます。

1. 歴史

現在、大阪市内には、市の運営する8か所の渡船場があり、15隻の船が地域の多くの人々に利用されています。また、古来の大阪市では数多くの川が流れ、人々の往來のための渡船場が各所にありました。

当初民間によって営まれていた渡船は、明治24年に大阪府が「渡船営業規則」を定めたことにより監督取締りの対象となり、明治40年には29渡船場について、市営事業として市が管理することになりました。

また、大正9年の旧道路法の施行により渡船は無料となり、ほとんどの渡船が市の直営方式となりました。昭和10年頃には渡船場31か所、保有船舶数69隻、年間利用者は歩行者が約5,752万人、自転車等が約1,442万台を数えました。

その後、橋梁の架設や道路施設の整備に伴い、渡船の利用は次第に減少し、令和2年では8か所約150万人になっておりますが、現在においても大阪市民の方々の重要な移動手段となっています。

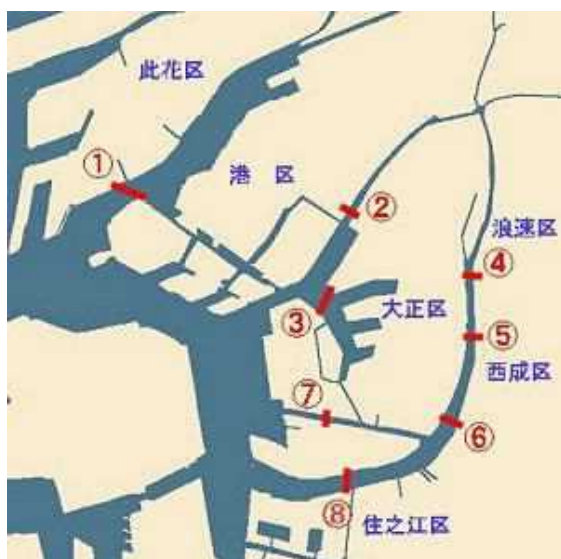
手漕ぎ時代の富島(とみじま)渡しの様子▼



源八(げんぱち)渡し跡碑



2. 現在の渡船場の位置



- ① 天保山渡船場
- ② 甚兵衛渡船場
- ③ 千歳渡船場
- ④ 落合上渡船場
- ⑤ 落合下渡船場
- ⑥ 千本松渡船場
- ⑦ 船町渡船場
- ⑧ 木津川渡船場





3. 渡し船の景色

天保山渡船場



渡船場から観覧車や海遊館が見えます！

天保山渡船場



千本松渡船場



千本松渡船場



落合上渡船場



4. おわりに

大阪市の公設渡し船は、大阪市建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所にて運航しており、各渡船場により運航時間は違いますが、最長で朝6時～夜9時半まで正月以外ほぼ毎日運航しています。また、歩行者だけでなく自転車と一緒に搭乗することも可能なので、サイクリングコースとして取り入れることで普段と違った景色を感じることができます。

ちょっとした船旅をみなさんもしてみませんか。



淀川舟運の復活に向けて ～淀川大堰閘門の事業着手～

近畿地方整備局河川部河川計画課

1 淀川舟運の発達と衰退

淀川では、古来より主要な交通手段として舟運が発達してきました。古くは奈良時代、聖武天皇が恭仁京（現在の木津川市）から難波宮（現在の大阪市）に遷都する際の物資輸送に舟運が使われたといわれています。また、後に豊臣秀吉が伏見港を開いたこともあり、以降、大阪と京都を結ぶ三十石船が淀川を往来し、河岸は人や物、情報交換の場として賑わっていました。図-1は江戸時代に描かれた淀川を航行する三十石船と「くらわんか船」です。「くらわんか船」とは、行き交う船の乗客に対して、「酒くらわんか」「飯くらわんか」と酒食を販売する船で、高槻市柱本が発祥と言われています。



図-1 三十石船(奥)とくらわんか船(手前)
枚方市教育委員会提供

明治時代になると、技術が進歩してより多くの人・貨物を運ぶことができる蒸気船が航行するようになりました。淀川では、蒸気船が航行できる水深を確保するため、川の流れを中心に集める「水制工」が設置されました。現在は、当時設置された水制工が「ワンド」として水生生物の貴重な生息場となっています。(図-2)

大正時代になると、沿川の鉄道開業や道路網の発達に伴い、淀川を航行する船舶数は減少し、舟運は徐々に衰退していきました。昭和 37 年には大阪と京都を結ぶ貨物船輸送が終了し、以降は砂利採取船や大川(旧淀川)周辺の観光船の航行が見られる程度となります。

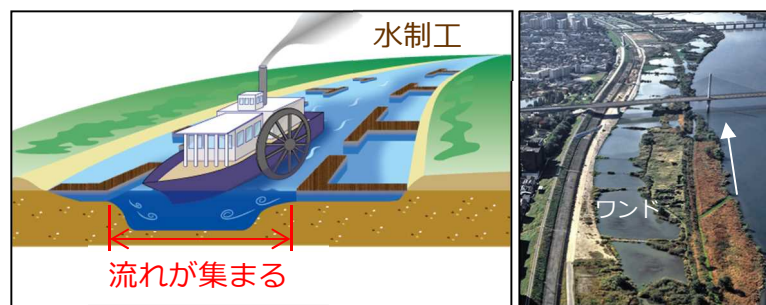


図-2 水制工とワンド

2 淀川舟運見直しのきっかけ

淀川舟運を見直すきっかけとなったのは、平成 7 年 1 月に発生した兵庫県南部地震でした。この地震により、淀川の河口から約 2km の大阪市此花区西島地区において、堤防が沈下・崩壊しました。発災当時は陸上交通網が麻痺していたこともあり、堤防の応急復旧は水上から復旧資材を運搬することによって進められました。結果、応急復旧を約 10 日程度で完了し、満潮による二次災害も防ぐことができました(図-3)。淀川では、この災害を通じて災害時における舟運の有効性が再認識され、巨大地震等の発生に備え、これまで沿川に9箇所の緊急用船着場を整備してきました(図-4)。



図-3 平成 7 年兵庫県南部地震時の被災と応急復旧



図-4 淀川沿川の船着場

平常時の利活用についても、沿川自治体や舟運事業者から多くのご意見・ご要望を頂いており、近畿地方整備局では航路調査や維持浚渫、地域や舟運事業者と連携した舟運社会実験などの取り組みを行っています(図-5)。平成 29 年には、大川の八軒家浜～淀川の枚方を結ぶ定期観光船が就航し、概ね月 1 回以上の頻度で航行されています(図-6)。枚方市では、定期観光船の運航日に合わせて地域イベントを開催するなど、賑わいを見せています。また、昨年と今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から祭り自体が中止されてしまいましたが、春には桜の名所として有名な背割堤周辺(八幡市)のさくら祭りに合わせて花見船も運航されています。淀川の下流域では、令和 7 年に予定されている大阪・関西万博に向け、淀川舟運を活用した万博会場(夢洲)へのアクセスについて関係機関と連携しながら検討を進めているところですが、その拠点となりうる大阪市淀川区の十三地区においては、現在船着場の整備を進めています。更に、河川空間の魅力向上に向け、かわまちづくりの事業化に向けた議論が地域を挙げて進められているところです。以上のように、淀川沿川では舟運をキーワードに地域活性化に向けた取り組みが展開されており、淀川舟運復活に向けた機運が高まっています。



図-5 近畿地方整備局のこれまでの取り組み例



図-6 定期観光船のチラシ

3 淀川大堰閘門の事業着手

淀川河口から約 10km 地点には水道用水の確保や潮止めを目的に、昭和 58 年に建設した淀川大堰があります。淀川大堰の上下流では最大約 2m 程度の水位差が生じており、船での往来ができない状態です。このため、上下流で異なる水位差を調整し船の往来を可能とする「閘門」の設置について、沿川自治体等から強くご要望を頂きました。これらご要望をふまえ、近畿地方整備局は令和 3 年度に現地着手し、大阪・関西万博の開催までの完成を目指しています。

淀川大堰閘門は、淀川大堰の左岸側に幅約 20m、延長約 70m の閘室を計画しており、完成すれば閘室幅が日本最大級で、大型観光船(定員 100 名程度)4 隻が同時通過可能となる施設です。



図-7 淀川大堰閘門の概要

4 淀川舟運の復活に向けて

淀川大堰閘門の設置により、淀川河口から上流域まで船の往来が可能となります。これにより、地震等災害時の復旧活動や河川工事等の資機材運搬等が円滑・広範囲に展開できるようになる他、淀川沿川の更なる賑わいの創出や地域間交流の拡大に寄与するものと考えられます。また、大阪・関西万博においては、世界各国・日本全国からの来場客を乗せた観光舟運や、沿川の観光スポットへの誘導などの役割も期待できます。

近畿地方整備局は、淀川舟運の復活に向け、淀川大堰閘門がその起爆剤となるよう事業を推進するとともに、引き続き沿川自治体や舟運事業者と連携しながら、淀川沿川の賑わい創出に寄与する淀川舟運活性化の取り組みを進めて参ります。



図-8 淀川沿川に点在する観光スポット



但馬池(多目的調節池)

大阪府堺市 百舌鳥川

堺市東区の北西に位置する白鷺公園は、但馬池を含む多目的調節池であり、平常時はグラウンドや公園として周辺住民に利用されています。

池の東側には堺市管理河川である準用河川百舌鳥川が流れており、河川水位が上昇した際に、但馬池に流入して貯留されることで洪水調節を行っています。

また、堺市の花であるハナシヨウブ（肥後系、江戸系、伊勢系など約百種一万株）が植えられており、見ごろの時期には遠方からも、多くの人々が鑑賞に訪れます。

大阪府立狭山池博物館 令和3年度特別展・開館20周年記念展

狭山池のルーツ—古代東アジアのため池と土木技術—

■日時：令和3年10月9日（土）～令和3年12月5日（日）

■場所：大阪府立狭山池博物館（大阪府大阪狭山市） 入館料無料

<概要>

狭山池博物館ではこれまで、狭山池に関連する日本、中国、韓国の遺跡や現役の灌漑施設、土木技術等を取り上げてきました。開館から20年が経つ中で、各国で発掘調査や研究が進み、新しい知見が積み重ねられてきました。そこで本展では、日中韓における古代のため池やため池を造る際に用いられた土木技術に関する近年の研究成果を中心に紹介、展示します。

紀元前数千年前まで遡る、古代東アジアのため池と土木技術の歴史をぜひご覧ください。

- ・交通機関：最寄り駅：南海電鉄高野線「大阪狭山市」駅下車、西へ700m
- ・問い合わせ先：大阪府立狭山池博物館 TEL 072-367-8891
- ・ホームページ：<https://sayamaikehaku.osakasayama.osaka.jp/>
- ・新型コロナウイルスの影響により、展示期間や関連行事等の変更する場合がございます。本館のホームページまたは電話等にて最新の状況をご確認くださいませようお願いします。

韓国・薬泗洞遺跡の堤防断面



日本・奈良県城島遺跡から出土した木製の鋤

～編集後記～

各府県と各政令市のご担当者様におかれましては、お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。紙面をお借りしまして御礼を申し上げます。

今後も「さらさ」を情報共有・情報発信の場として、さらに活用していただければと思います。

編集担当：大阪市建設局企画部河川課

編集・発刊：三重県、福井県、滋賀県、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、兵庫県、神戸市
奈良県、和歌山県、国土交通省近畿地方整備局